

10 高知市在住老人の健康状態把握のための実態調査

高知女子大学 松本 女 里（8回生）
大名門 裕 子（17回生）
井 上 郁（22回生）
○横 山 多加子（26回生）

1. はじめに

高齢化社会を迎え、老人が健康で快適な生活を送ることができる体制づくりが急がれている。それらの施策をより有効に行い、さらに充実・発展させるためには、現在の老人の生活と健康の実態を把握し、健康な生活を送る上での問題点を明確にする必要がある。

今回、われわれは、その一つの基礎資料として、また健康を阻害された時に、どこにどのような援助が必要であるかを考えていくために、本調査を行った。

2. 調査の概要

1. 調査目的

高知市における老人の生活実態、とくに健康にかかわる状況を把握する。

2. 調査対象

高知市内在住の65歳以上の老人32,194人から無作為抽出した2,425人を対象とした。

3. 調査期間

昭和60年5月27日～31日の5日間

4. 調査方法

調査員が対象となった老人の家庭を訪問し、本人または家族に面接調査した。

3. 調査結果と考察

1. 対象の概要

結果は表1のとおり回収率93.9%と高いものであった。実際に集計に利用できたのは、1,869人（82.0%）であり、利用できなかった409人（18.0%）のうち入院、入所

表1 調査票の回収

対象数 A	回収数 B	有効数 C	入院・入所 D	死亡 E	その他 F	拒否 G	不能 H
2,425人	2,278	1,869	251	7	121	30	147
	B/A 93.9	C/B 82.0	D/B 11.0	E/B 0.3	F/B 6.5	G/B 1.6	H/A 6.1

251人(11.0%)、死亡7人(0.3%)であることは高齢者の特徴であろう。

性別では、男性747人(40.0%)、女性1,122人(60.0%)で女性の方が多く、年齢別では男女ともに65～69歳までが約40%を占めている。これは、市内全老人人口の男女比と比較すると男性38.6%、女性61.4%であり、年歳別でも65～69歳が33.0%であり、調査対象者の方がやや男性が多く、65～69歳が占める割合が高くなっている。(表2・3)

表2 性別

総数	男	女
1,869 (100.0%)	747 (40.0)	1,122 (60.0)

表3 性・年齢別

年齢	総数	男	女
総数	1,869 (100.0%)	747 (100.0)	1,122 (100.0)
65～69	749 (40.1)	301 (40.3)	448 (39.9)
70～74	518 (27.7)	214 (28.6)	304 (27.1)
75～79	331 (17.7)	134 (17.9)	194 (17.3)
80～84	173 (9.3)	61 (8.2)	112 (10.0)
85～	98 (5.2)	37 (5.0)	61 (5.4)

性291人(25.9%)と女性が高く、年齢別では80～84歳では女性が、85歳以上では男性が高くなっている。

「病気がちで寝込むことがある」では男性34人(4.5%)、女性50人(4.5%)、年齢別では高齢になるほど男性が高くなっている。

「病気で一日中寝込んでいる」は男性8人(1.1%)、女性18人(1.6%)とやや女性が高い。これを寝たきりとみなすと、昭和59年「厚生行政基礎調査」による65歳以上の人口の寝たきりの占める率3.1%に比較して、低い率を示している。

2. 健康状態

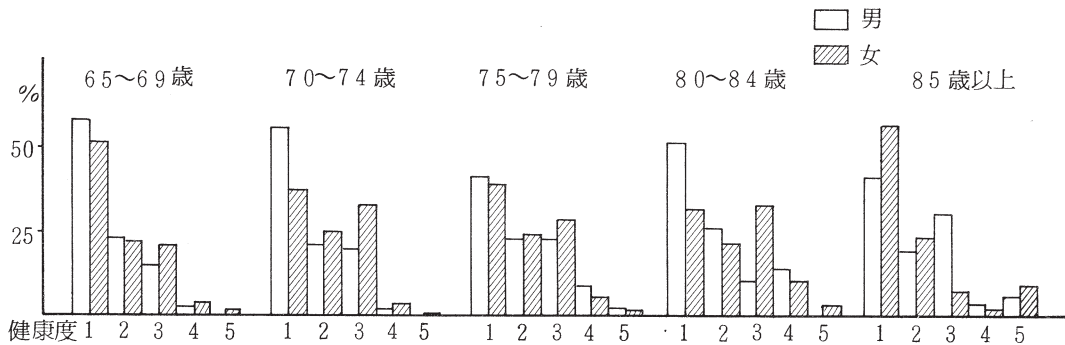
1) 自分の健康について

自分の健康についてどのように考えているか、「健康である」と答えた者は男性395人(52.9%)、女性487人(43.4%)と男性が高い。

年齢別にみると、図1に示すように男性が高いが、85歳以上では女性が高くなっている。「あまり健康とはいえないが病気はない」と答えた人は男性166人(22.2%)、女性261人(23.3%)とあまり差はない。

「病気がちであるが寝込むほどではない」では男性136人(18.2%)、女

図1 自分の健康について



<健康度>

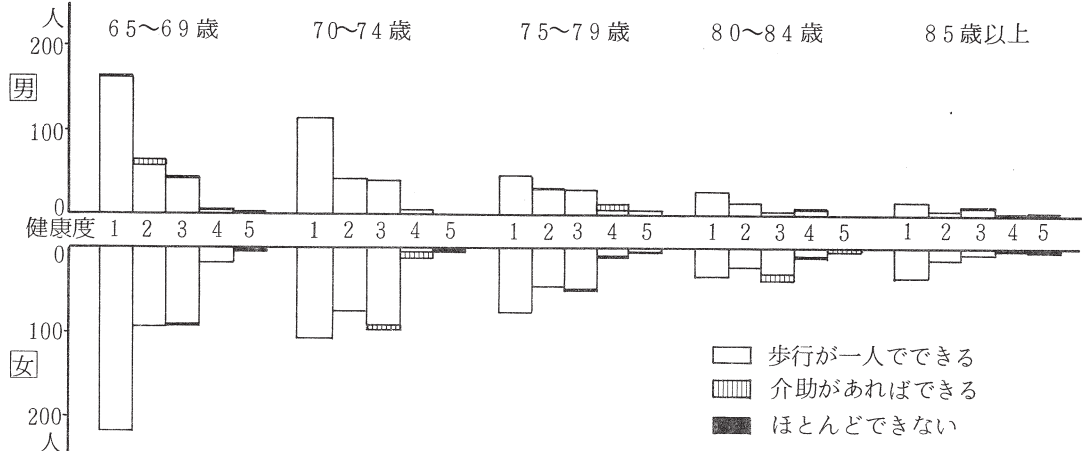
- | | |
|----------------------|------------------|
| 1…健康である。 | 4…病気がちで寝込むことがある。 |
| 2…あまり健康とはいえないが病気はない。 | 5…病気で一日中寝込んでいる。 |
| 3…病気がちであるが寝込むほどではない。 | |

2) 具合の悪いところ

(1) 歩 行

大部分(約91%)の人が、一人で歩行が可能である。介助があれば可能な人は、男性22人(2.9%)、女性33人(2.9%)であり、ほとんど出来ない人は男性11人(1.5%)、女性13人(1.2%)である。図2が示すように、「病気がちで寝込むことがある」「病気で一日中寝込んでいる」に不自由な人が多くなっている。

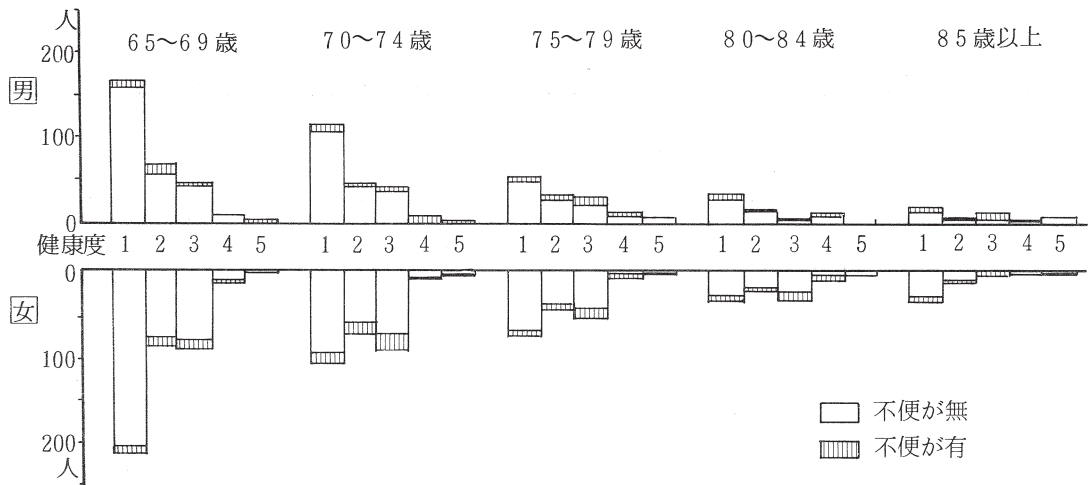
図2 歩 行



(2) 視 力

日常生活で不便を感じていないが、男女とも約85%と多くあり、図3が示すように年齢別、健康度別にみてもあまり差がない。年齢が高く、病気がちで寝込んでいる人に不便を感じない人が多くなっているのは、目を使う必要が少なくなっているからであろうか。

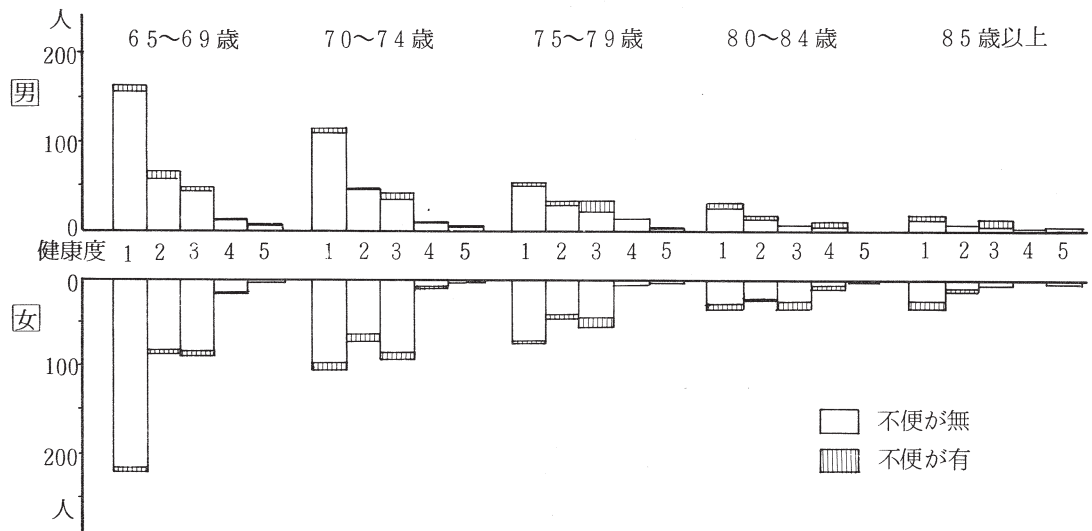
図3 視 力



(3) 聴 力

日常生活に不便を感じていないは、男性84.6%、女性85.7%と高く、図4が示すように年齢別、健康度別にあまり差がない。

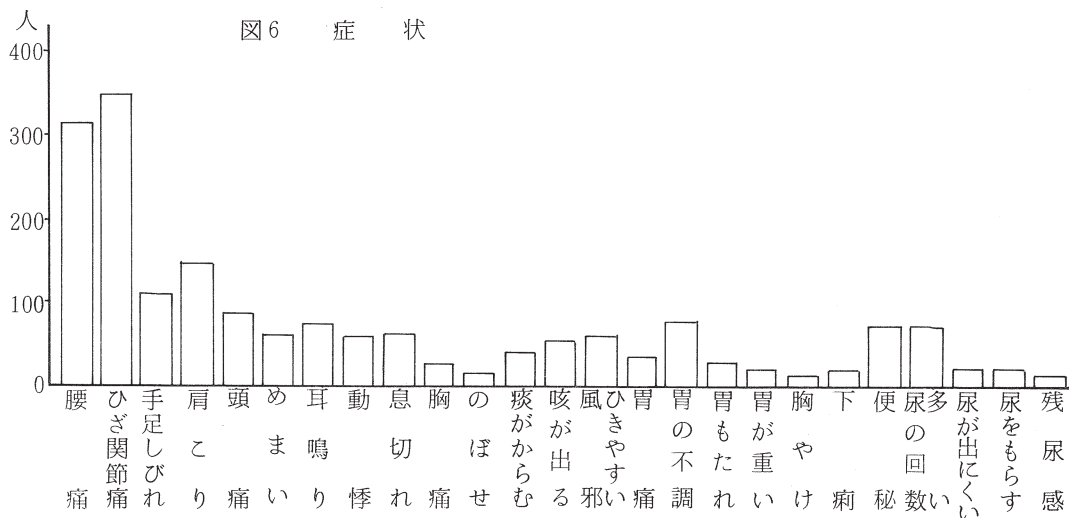
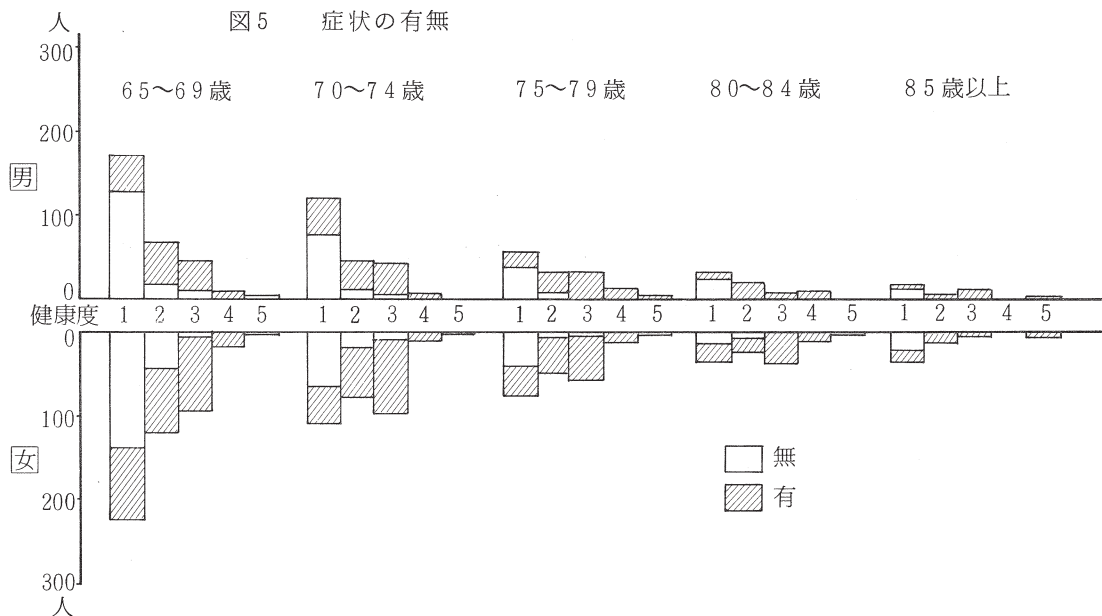
図4 聴 力



3) 現在の疾病

(1) 症状の有無

症状の有無をみると、「健康である」と答えた男性 28.6%、女性 39.6%が何らかの症状があるとしている。図5が示すように、年齢が高くなる方が症状が無いと答えている人が多い。主な症状は、図6が示すように「腰痛」「ひざ関節痛」など運動器の疼痛が多く、高血圧等成人病にともなう症状が多くみられる。



(2) 現在ある病気

現在病気が無いと答えたのは941人(50.3%)、有り894人(47.8%)と無いがやや高い。(図7)

傷病分類別にみると、表4に示すように循環器系疾患が多く、次いで神経感覚器系疾患、筋骨格系疾患となっている。これは65歳以上の有病率の高いものと一致している。

図7 病気の有無

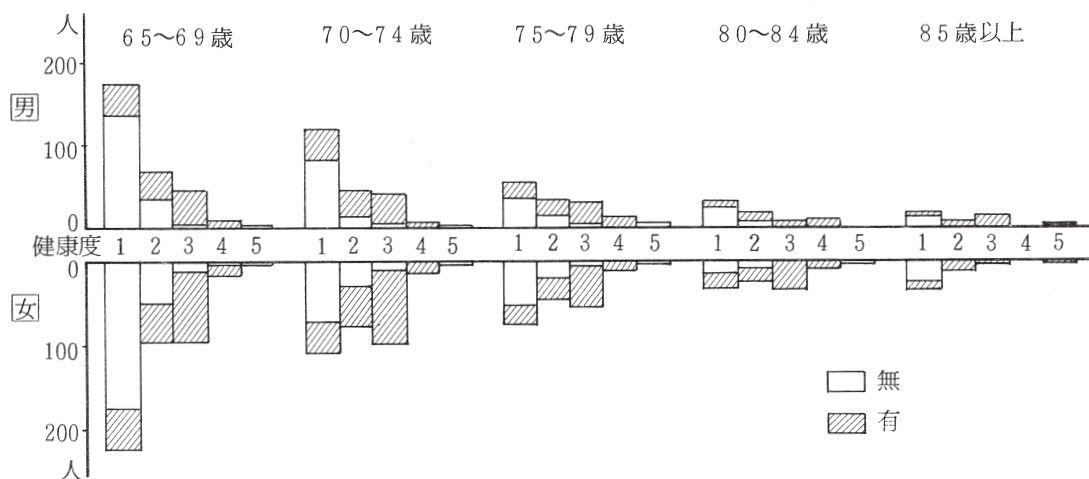


表4 現在ある病気

	総 数	健康である	あまり健康とはいえないが病気はない	病気がちであるが寝込むほどではない	病気がちで寝込むことがある	病気で1日中寝込んでいる
総 数	1,155	256	278	506	92	23
循環器系疾患	399	87	95	175	30	12
神経感覚器系疾患	233	61	47	110	15	0
筋骨格系疾患	137	38	41	47	9	2
消化器系疾患	95	16	24	42	8	5
内分泌系疾患	73	12	16	38	6	1
呼吸器系疾患	52	9	12	25	5	1
泌尿器生殖器系疾患	34	3	6	21	4	0
そ の 他	132	30	37	48	15	2

4) 医療機関へのかかり方

(1) かかりつけの医者

かかりつけの医者の「有」は男性 4 0.0 %、女性 2 2.6 %と低い。

昭和 5 8 年「保健衛生基礎調査」による調査結果では、世帯全体の「有」が 6 4.8 %、「無」 3 5.2 %で市郡別の差がないとなっている。世帯と個人なので比較は出来ないが、病気になったとき、決まってみてもらい医者がない人が多いと言えるであろう。

(2) 売薬の利用状況

売薬（漢方薬を含む）の利用状況は、男性 7 4.3 %、女性 7 1.6 %と高い。利用している売薬の種類は、風邪薬、胃腸薬が多い。

(3) 医療機関選択の理由

現在病気が「有」と答えた人が医療機関を選んだ理由は、「近くて便利である」が 4 1.7 %と高い率であり、次に「かかりつけの医者」「紹介された」「評判がよい」と続いている。また通院頻度は、月 2 回が 2 8.2 %、週 1 回が 2 4.7 %、次に月 1 回が 1 6.0 %となっており、毎日は 8.1 %、週 2 回は 3.7 %と少なくなっている。

3. 日常生活について

1) 食事、排泄、入浴状況

日常生活のなかでかくことの出来ない「食事、排泄、入浴」について、自力で可能かをみたのが図 8 である。食事では回答者の 9 8.1 %、排泄 9 8.5 %、入浴 9 5.9 %が自力で可能であり、全面介助が必要な人は、食事 8 人（0.4 %）、排泄 1 2 人（0.6 %）、入浴 2 2 人（1.1 %）となっている。食事、または排泄が全面介助である人は全員入浴も全面介助であり、一人に複合の介助が必要であった。介助が必要な原因としては、麻痺等の運動障害によるものが多く、さらに入浴全面介助者の平均年齢は 8 0.1 歳であり老化に伴う精神、運動機能の低下も考えられる。一部介助は食事 9 人（0.5 %）、排泄 7 人（0.4 %）、入浴 3 6 人（1.9%）が必要であった。

介助者の約半数は妻であり、次いで娘、嫁が介助者のほとんどを占め、あと息子、その他の親族、夫となっている。対象者が高齢であれば、介助者である妻や娘の年齢も高いと考えられ、労力の大きい介助は介助者の健康上でも問題があると思われる。

食事内容は、ほとんどが自家製であり、出来あい、インスタント、外食は少なかった。外食が多いとしてリストアップされた者も、外勤等、職業上の理由からが多かった。

食事回数については、1 日 3 回がほとんどであるが、1 日 1 回の人が 4 人あったのは問題である。

入浴回数は、5 3.0 % の人が毎日であり、2 日に 1 回が 2 7.1 %、3 日に 1 回 1 2.6 %とな

図8 食事、排泄、入浴の状況

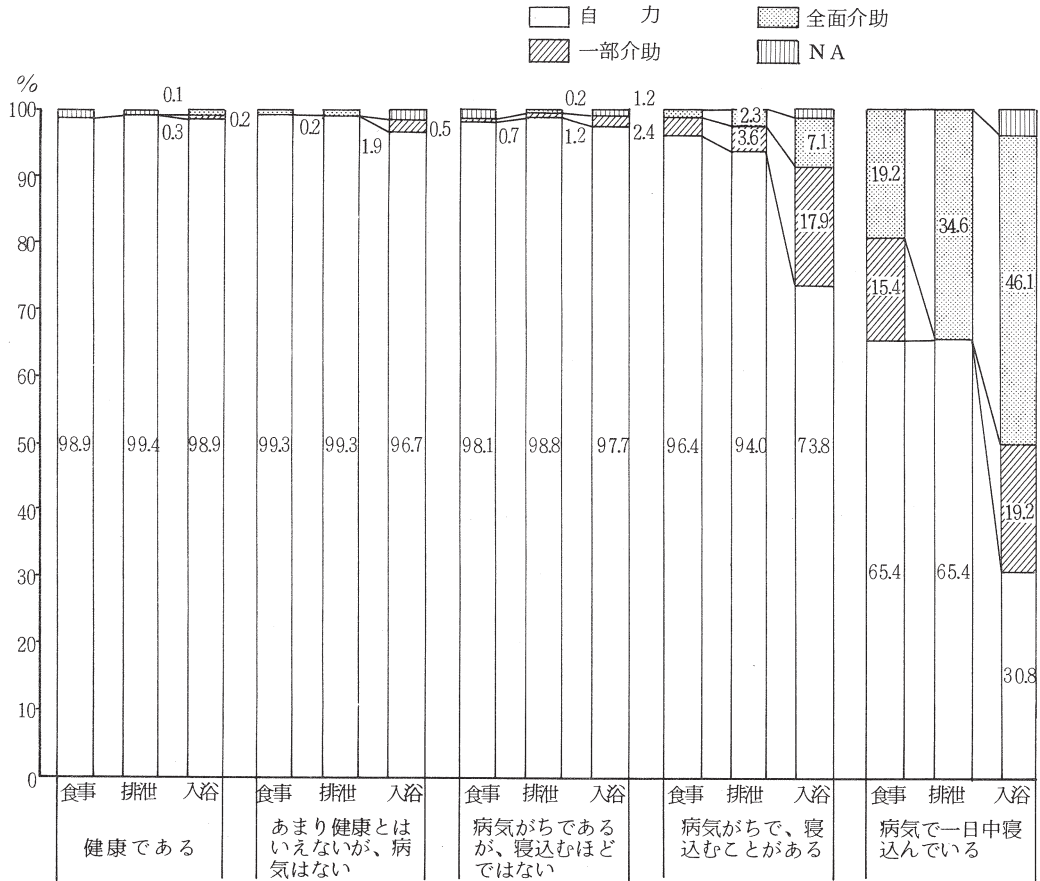


図9 家事労働、炊事

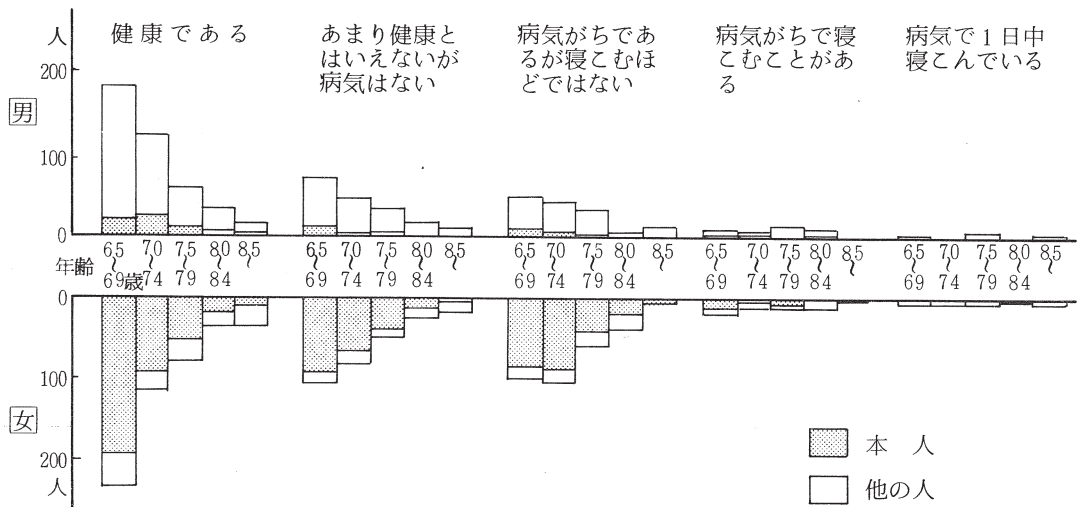


図10 家事労働、洗濯

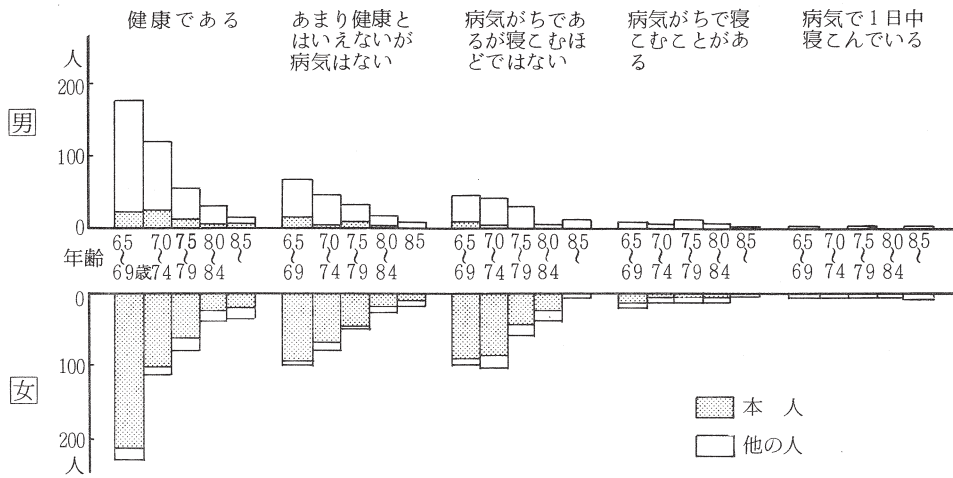


図11 家事労働、掃除

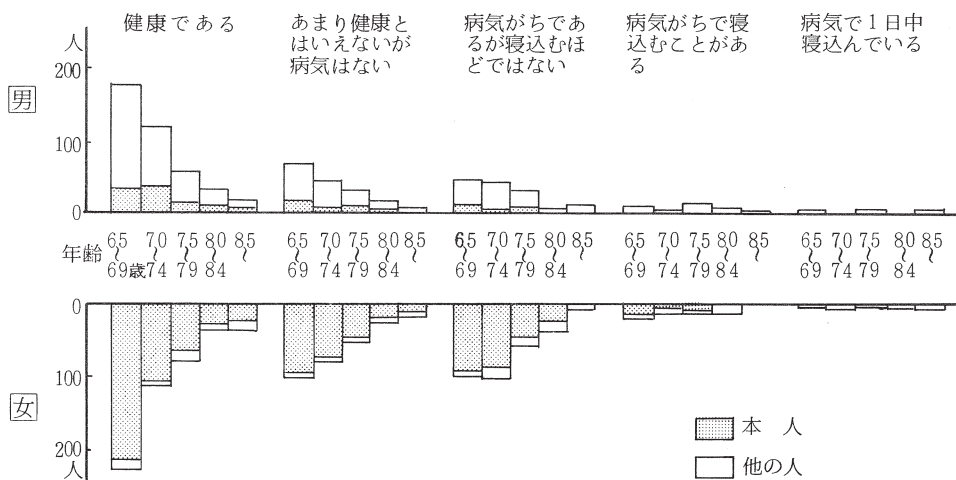
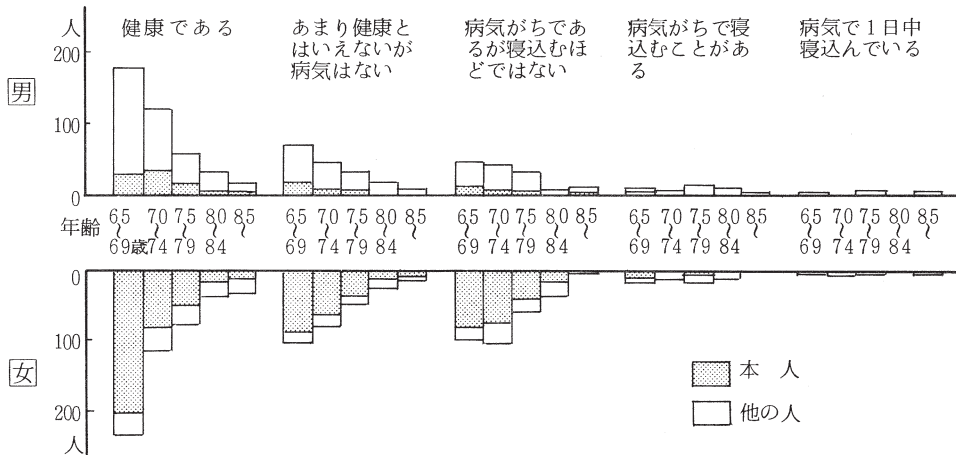


図12 家事労働、買物



っている。「病気で一日中寝込んでいる」では、週1回と入浴回数が少なくなっている。

2) 家事労働の状況

炊事、洗濯、掃除、買物について、自分でやれるのか、他の人がやるのかをみると、図9、10、11、12に示されるように、男女の差がはっきり出ており、健康度別、年齢別にみても女性は自分でやる人が多く、男性は他の人が多くなっている。

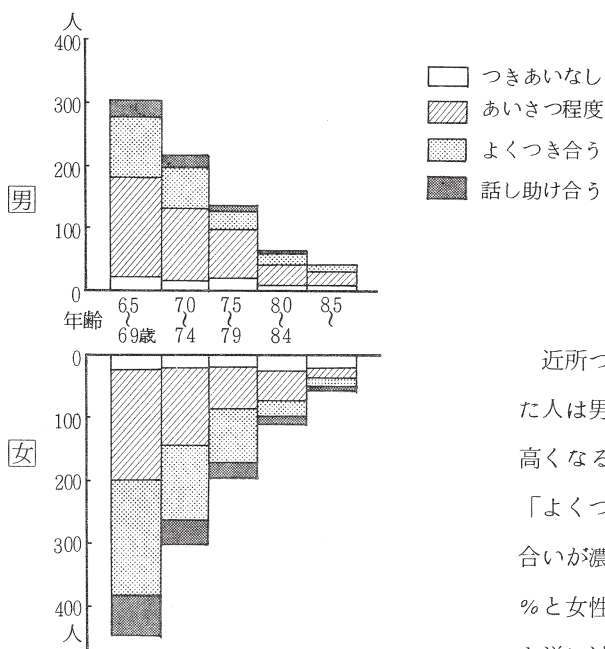
家事全般にわたって、介助者は妻が半数を占め、次いで嫁、娘が多くなっている。

他の人がする理由をみると、約70%が「してくれる」からと回答しており、家事は妻、娘にかかっていることがうかがわれる。また、「したことがない」が10%を占めており、わずかであるが「させてくれない」があることは、ボケの問題ともつながってくるので注目したい。

外出については、1,678人(89.8%)が「する」と答えており、その目的は「通院」が40%を占め、「散歩」33%、交友23%、「親戚付き合い」「趣味」と続いている。

外出しない172人(9.2%)についての理由は、「身体が不自由」が73人(42.5%)となっており、「転ぶと怖い」「病気に悪い」を含めると約50%強の人が身体的な条件で外出をしていない。また、約20%の人が「目的がない」「好きでない」「つき合う人がない」の理由で外出をしていない。

図13 近所づきあい



近所づきあいについて、「なし」と答えた人は男性9.8%、女性9.4%で、年齢が高くなるにつれ、その割合は増加している。「よくつき合う」「話し助け合う」とつき合いが濃い人は男性35.3%、女性50.7%と女性が高く、男女とも年齢が高くなると逆に減少している。(図13)

3) 経済的背景

住居については、1,425人(76.3%)が持家であり、1,477人(79.1%)が自分専用の部屋を持っていた。

生活費は、年金や恩給に頼るものが1,336人(87.2%)と多く、次いで賃金282人(18.4%)となっている。年金の種類としては、国民年金43.5%、厚生年金26.2%、共済年金11.7%と年金のほとんどを占めている。

4. おわりに

以上の調査の結果、在宅老人の約90%の生活状況は、自力で出来ており、多くの人は健康面でも特に大きな問題は出て来ていない。しかし、数は少ないものの、食事回数が極端に少ない人や、家庭で全面介助を受けている老人では介助者も含めて生活面の問題が大きく、健康面での援助も必要であると考えられる。今後、それらの対象者を追跡調査することにより、問題点を具体化し、個別的な援助をする必要があると思われる。

調査員により老人性痴呆が疑われると思われた人が51人あった。再度の訪問調査の結果、老人性痴呆として介護を要する人は9人(0.5%)であった。また、F園に入所していて対象者となった13人のうち4人が老人性痴呆であった。さらに、他の病院、施設に入院、入所している対象者についても今後の調査により明確にしたい。